



ひと、つながる。 墨田区



東京スカイツリー
©TOKYO-SKYTREETOWN

東京スカイツリーは、2022年5月22日に開業10周年を迎えました。開業以来4070万人を超えるお客さまにご来場いただいています。

東京スカイツリー建設の経緯として、在京テレビ局6社が600m級の新タワーを求めプロジェクトを立ち上げ、それに呼応して首都圏各地が誘致に名乗りを上げた中で、墨田区も候補地の一つとして名乗りを上げました。その後、墨田区から東武鉄道社へ協力要請をいただき、官民一体となって誘致活動を行い、最終候補地として確定しました。

そして、地域の活性化という視点から前述の電波塔機能のみの施設ではなく、商業施設とオフィス棟を含む複合施設「東京スカイツリータウン®」としての開発に至っています。

東京スカイツリー®と すみだの10年の歩み

このように、墨田区とスカイツリーは施設の根幹にまで密接な繋がりがあります。開業後も、地元の商店街等との連携による「キャラクターフェスティバルすみだ」や、春のスタンプリー企画として地域周辺のイベント等を定期的に開催してきました。

※コロナの影響で近年は未実施

■開業10周年を迎えて

開業記念日の5月22日には「東京スカイツリータウン開業10周年記念祭典」を実施しました。記念祭典では、今まで支えて頂いた皆さまに感謝するとともに、新型コロナウイルス感染症をはじめ、世界で起こっている争いなどが早く収束し、世界が平穏でいられるよう、地上634mの東京スカイツリーの頂上部で「市川海老蔵 天空のにらみ」を開催しました。また、高さにちなみ、先着634名様へ感謝の想いを込めて、地元墨田区の職人さんに一つ一つ丁寧に作り上げていただいた「東京スカイツリータウン10周年オリジナルコースター」をプレゼントしました。

そのほか、「みんなのスカイツリー」をテーマに「東京スカイツリー開業10周年記念特別ライティング」のデザイン募集を実施し、墨田区の小学生の皆さまにも多くご応募いただきました。さらに、SNSにて募集した皆さまの思い出写真で、モザイクアートを作成して掲出するなど、地元の皆さまも一緒に参加いただける企画を実施しています。



東京スカイツリータウン開業10周年記念祭典
「市川海老蔵 天空のにらみ」
©TOKYO-SKYTREETOWN

■今後の展開に向けて

開業から10年が経ちスカイツリーは、東京の風景として「あたりまえ」になってきているかと思えます。

しかし、施設としてその「あたりまえ」に慢心せず、社会的な電波塔という重要な社会インフラとしての機能を安定的、永続的に発揮していくことと、観光立国日本のシンボルとし



キャラクターフェスティバルinすみだ
©TOKYO-SKYTREETOWN

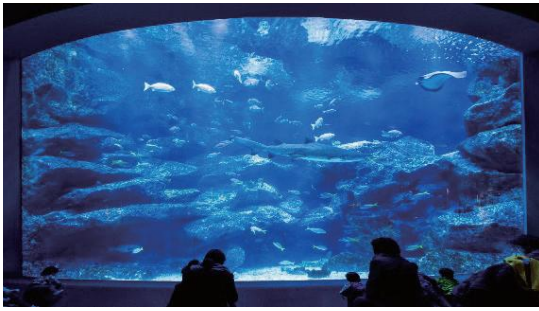
て、展望台の安全・安心を基盤に世界一愛されるタワーを目指していきます。

今後も、様々なお客様にご来場していただけるような、魅力あるイベントの実施や情報の発信に努めていきます。さらに、皆さまのライフイベントに寄り添う施設として、人生の折々で思い出していただける様な施設になるとともに、墨田区と連携を図り、町全体、近隣の方にも四季を通して楽しんでいただき、沢山の笑顔が集まる魅力的な街づくりの一部となれるような取組を行っていききたいと考えます。

スカイツリーの持つ唯一無二の眺望で皆さんの十人十色の人生に寄り添い共に歩む、そんな施設でありたいと考えております。

(東武タワースカイツリー株式会社
豊田 郁太郎)

すみだの皆さまと「会えて、よかった。」



公園のような水族館を目指してすみだ水族館は暮らしの中でいきものと水に親しむことのできる施設として、2012年に東京スカイツリータウンと同時に開業しました。居心地が良く、公園のように過ごすことのできる水族館を実現するため、決まった順路を設けない自由導線の導入や、ソファアの設置、入館料金2回分相当の年間パスポートの販売など、すみだの皆さまに通っていただけのような空間づくりを心がけてまいりました。



上：飼育スタッフも参加した「かいぼり」の様子
下：復元した「金魚屋台すみだ号」

2020年夏に大規模リニューアルを行い、長径約7メートルの水盤型クラゲ水槽「ビッグシャーレ」が誕生。さらに、クラゲの飼育・繁殖作業を間近に観察いただける「ラボ」と、いきもののゴハンの準備をする「キッチン」で構成される新エリア「アクアベース」を新設しました。

アクアベースではこれまでバックヤードで行っていた飼育作業を公開することで、スタッフとお客様の隔たりをさらになくし、いきものへ近づいていただけの場所になったと感じています。

特別住民票の授与を皮切りに「ペンギンのいる街プロジェクト」を開始し、墨田区内の商店とコラボレーションも開始しました。今後は「すみペンアンバサダー」に就任いただいた店舗と連携した情報発信を予定しています。

（すみだ水族館 企画広報チーム）

■公園のような水族館を目指してすみだ水族館は暮らしの中でいきものと水に親しむことのできる施設として、2012年に東京スカイツリータウンと同時に開業しました。居心地が良く、公園のように過ごすことのできる水族館を実現するため、決まった順路を設けない自由導線の導入や、ソファアの設置、入館料金2回分相当の年間パスポートの販売など、すみだの皆さまに通っていただけのような空間づくりを心がけてまいりました。

■より地域と密着した存在に墨田区と協力しながら、身近な自然を考える活動や地域の学校との交流にも取り組んでいます。

すみだ水族館スタッフ（以下、飼育スタッフ）も参加した「かいぼり」は、ため池の水質改善や環境保全を目的とした管理作業のひとつで、これまでに大横川親水公園の万華池や隅田公園のひょうたん池で実施してきました。すみだ自然環境サポーターや職員の皆さまと一緒に、水辺や水中に生息しているいきものを捕獲し、水を汲み出した池に入って、清掃やいきものの記録を行いました。

また、飼育スタッフが墨田区内の小中学校を訪問する出張授業も継続的に開催しています。環境教育やキャリア教育を含めた総合学習の授業では、すみだ水族館が協定を結んでいる世界自然遺産の

小笠原村の海についてや、飼育スタッフの仕事内容をテーマに取り上げてきました。

さらに、東京のしたまの文化の発信に関する取組も行っています。「東京金魚プロジェクト」は、かつて金魚の展示とともに、したまちで栄えた金魚文化を次世代につなぐプロジェクトです。すみだクリエイティブクラブとの連携によって復元した「金魚屋台すみだ号」を中心とした活動が評価され、2015年にはグッドデザイン賞も受賞しました。

■ペンギンのいる街、すみだすみだ水族館では、開業翌年の2013年から10年連続でペンギンの赤ちゃんが誕生しています。

そこで、今年5月22日に開催した10周年の記念セレモニーでは、墨田区長より、すみだ水族館で生まれたペンギン20羽に「すみペン特別住民票」が贈呈され、めでたく墨田区の一員として認められました。ペンギンは地域の皆さまとすみだ水族館をつなぎ、多くの喜びを分かちあえる存在となっています。

特別住民票の授与を皮切りに「ペンギンのいる街プロジェクト」を開始し、墨田区内の商店とコラボレーションも開始しました。今後は「すみペンアンバサダー」に就任いただいた店舗と連携した情報発信を予定しています。

■もともともと あなたのなかへすみだ水族館の10周年のテーマである「会えて、よかった。」には、これまで出会えた多くの地域の皆さま、共に過ごしてきたスタッフやいきものたちへの感謝を伝える1年にしたいという思いを込めています。

10周年を節目に、これからも地域の方と手を取り合って、皆さまにとって公園のような場所になれるように共に歩んでいきたいと思っています。

■もともともと あなたのなかへすみだ水族館の10周年のテーマである「会えて、よかった。」には、これまで出会えた多くの地域の皆さま、共に過ごしてきたスタッフやいきものたちへの感謝を伝える1年にしたいという思いを込めています。

10周年を節目に、これからも地域の方と手を取り合って、皆さまにとって公園のような場所になれるように共に歩んでいきたいと思っています。

■もともともと あなたのなかへすみだ水族館の10周年のテーマである「会えて、よかった。」には、これまで出会えた多くの地域の皆さま、共に過ごしてきたスタッフやいきものたちへの感謝を伝える1年にしたいという思いを込めています。

10周年を節目に、これからも地域の方と手を取り合って、皆さまにとって公園のような場所になれるように共に歩んでいきたいと思っています。



すみだ水族館10周年記念セレモニーにて墨田区長より「すみペン特別住民票」が贈呈された